

第3世代携帯電話における分散型音声認識システム「声 de 入力」

「声 de 入力」は、KDDI と沖縄セルラー電話の第3世代（3G）携帯電話において、2006 年 1 月、コンシューマ向け音声認識サービスとして世界で初めて実用化、商用化した分散型音声認識システムであり、サービス名称である。分散型音声認識（DSR: Distributed Speech Recognition）は、音声認識の処理を、携帯電話側とサーバー側に分散配置し、処理を分担することにより、大語彙連続音声認識を実現したものである。これにより、携帯電話の性能に依存せず、実用的な精度と応答時間を両立させたもので、2006 年の実用化以降、au が販売する 3G 携帯電話のほぼ全機種に搭載された。

「声 de 入力」は、au が提供したナビゲーションサービス（EZ ナビウォーク）に「声で乗換検索」や「声で目的地検索」として導入された。出発駅や到着駅、日時など、また、目的地の電話番号や住所、ランドマーク名などを発話することにより、適切な経路情報を検索、表示、提供するもので、先駆的なサービスであった。

この成果は、一般社団法人情報処理学会より、「第3世代携帯電話における大語彙連続音声認識を可能にした分散型音声認識システムの開発と商用化」と表して、2010 年度喜安記念業績賞の表彰を受けるとともに、一般社団法人電子情報通信学会より、社会や生活、産業、科学技術の発展に大きな影響を与えた研究開発の偉業のひとつとして、2017 年に、電子情報通信学会マイルストーンに選定されている。